

「芸術の力を活用した遊びやワークショップを、支援を要する子ども達へ届け、
0歳からの笑顔とウェルビーイング向上をはかる」事業

「実績報告書」



■私たちの願い

「0歳～2歳の乳幼児と養育者対象の事業」は、「一生に関わる生きる力の基礎となる非認知能力・愛着形成を育む0歳から2歳の育ちの重要性」に着目し、合わせて「養育者の心の癒し、エンパワメントする」事業です。2018年から実績を積んで参りました。

昨年2023年に、国が策定した「こども大綱」には「こどもまんなか社会」が謳われており、「こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたる基礎を培う、最も重要な時期であり、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。」と明記されています。

0歳からの非言語の時期に、アートの力は「こども大綱」ライフステージ別重要事項に盛り込まれたウェルビーイング向上の実践の一つであり、虐待防止の一助として有効であることを社会発信し、行政、乳幼児・養育者支援施設、市民NPO等多くの方々と連携していきたいというのが私たちの願いです。

■事業の内容と目的

千葉県内の乳幼児院や児童相談所に入所している乳幼児、または母子生活支援施設等の親子を対象に、乳幼児の成長発達ことを研究し開発されたプロの芸術家による、参加型のわらべうた 表現あそび 人形劇 ダンス等のワークショップを実施する。県内の乳幼児対象者がいる施設8か所で実施する。

- ①豊かに生きていくための愛着形成、非認知能力の形成を促し、心身の癒しと笑顔を届ける。
- ②施設職員や養育者も一緒に楽しんで笑顔になり、簡単な遊びや芸術的プログラムスキルを身につけ、日常生活の養育の質を豊かにしてウェルビーイングの向上を図る。



0歳～2歳児期は、基本的な人格形成の芽が育つ時期であり、母子一体感の体験が、母親への癒しと親子の愛着形成につながります。アート等の力で笑顔になり、五感で感じる表情等、驚くような発達と成長を発見できます。



将来生きる力となる好奇心、共感力、協調性、コミュニケーション力といった数値では測れない「非認知能力」を育み身につける最適な時期は、乳幼児期であることに着目した事業です。乳幼児期の子どもの成長 発達を応援すること、五感に働きかけることの重要性が、脳科学の研究者や専門家等からも注目され提唱されています。

■具体的な非認知的能力とは■

◎目標を達成するための「忍耐力」「自己自制」「目標への感情」 ◎他者と協力するための「社会性」「尊敬」「思いやり」 ◎感情を抑制するための「自尊心」「楽観性」「自信」
いずれも大切な力や姿勢が含まれています。例えば算数の問題を解くためには、授業で理解したり、公式を暗記したりする「認知能力」が求められます。しかし、それだけでは不十分で、理解できるまで根気強く勉強を続けたり、友だちと教え合ったりという「非認知的能力」の支えが必要です。また、生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を築くなど、人生のあらゆる場面の支えにもつながります。(ぐるっと房総 2018年1月10日発行 第87号より)

■非認知的能力が注目される理由■

教育経済学の研究者で、2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームス・ヘックマンさんがいます。ヘックマンさんの主張は大きく2つあります。

- ①子どもの教育に国が政策としてお金を使うなら、就学前の乳幼児期が効果的だということ。
- ②幼少期に非認知的能力を身につけておくことが、大人になってからの幸せや経済的な安定感につながることに。

ヘックマンさんの代表的な研究に「ペリー就学前プロジェクト」があり、アメリカミシガン州で1960年代から始まり、現在まで続いています。大人になっても幸せでいられるのは「非認知的能力」を身につけたことが大きな要因であるとされています。(ぐるっと房総 2018年1月10日発行 第87号より)

★非認知能力の発達を底支えし土台になる「安定したアタッチメント」★

- ・日本ではアタッチメントは「愛着」とか“くっつく”と訳されています。
- ・早くから目をつけたのは精神科医で臨床心理士のボウルヴィーです。ボウルヴィーのアタッチメント理論では、「安心の輪」「安心な避難場所」「心のよりどころ」と言われ、「心の中にしっかりした輪ができれば、多少のことがあっても乗り越えていけるよ!」ということです。(聖徳大学 聖徳大学大学院 兼任講師 佐野裕子氏講演会から)

★アートのチカラで変わる・変えていく★

赤ちゃんに力がある。本来的に生まれ持ってきた力、感じる力、人とともに生きようとする本能、善悪を区別する力。そして、何より赤ちゃんとともにある現代社会の中で鎧を着ながら生きているたくさんの大人たちが、一定の柔らかさを取り戻すことができる。(川中美樹氏(山の音楽舎)講演会から)

■こども家庭庁創設で「こども基本法」が施行。「こども大綱」に明記された誕生前から幼児期まで

「こども大綱」には「こどもまんなか社会」が謳われており、「切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。」と明記されています。こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたる基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。多様性を尊重しつつ保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。乳幼児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。

■事業実績

	実施施設・パフォーマー・作品名	日時	子ども 0歳～ 5歳	保 護 者	施設ス タッフ	行 政 取 材	合 計
1	乳児院エンジェルホーム 大森靖枝さん 「なんだろな なんだろな？」	10月8日(火) 15:00～15:40	14		8	0	22
2	聖愛乳児園 大森靖枝さん 「なんだろな なんだろな？」	10月28日(月) 10:20～10:55	10		12	1	23
3	旭ヶ丘母子ホーム 安西真幸さん 「親子でいっしょにダンスあそび」	11月24日(日) 10:30～11:10	6	4	2	1	13
4	乳児院コミュニティ長柄 大沢愛さん 「わらべうたとおはなしのじかん」	11月27日(水) 10:00～11:00	16		16		32
5	はぐくみの杜君津赤ちゃんの家 大沢愛さん 「わらべうたとおはなしのじかん」	11月28日(木) 10:00～11:00	8		9		17
6	青い鳥ホーム 安西真幸さん 「親子でいっしょにダンスあそび」	11月30日(土) 10:30～11:10	11	7	5		23
7	乳児院イーハトーブ 安西真幸さん 「親子でいっしょにダンスあそび」	12月5日(木) 10:00～10:40	11		8		19
8	国府台保育園 地域子育て支援センター 一こあらっこ・こどもセンター 大森靖枝さん 「なんだろな なんだろな？」	2025年1月18日(土) 10:20～11:15	19	16	7		42
	合 計		95	27	67	2	191

※事業従事者 延べ29人 (パフォーマー延べ8人 コーディネーター延べ16人 当日スタッフ:5人)

■事業実施体制

★コア会議：計画から実行までの進捗管理と執行。統括責任者・事業責任者・渉外・財務会計等4名

★コーディネーター：10人登録

施設との丁寧なヒアリング、芸術家と子ども達との最適なマッチングをし、適切なプログラムを準備する。施設職員と連携しながら子どもたちにとって最良の一日が迎えられるよう配慮する。

■事業の成果・課題

1 心身への支援が必要な子ども、今を精いっぱい生きている親子が、パフォーマーの力で、あっという間に笑顔になり、親子でふれあいあそぶ楽しさと、うれしさ、幸せ感が会場に溢れた。「また参加したい」は100%、楽しかった・癒された・嬉しかった等は70%で、ニーズと満足度が高く、継続を切望されている。

2 施設スタッフは、親子の様子を楽しそうだった、いやされたようだ 安心しているようだと80%と評価が高い。芸術の力、プロによる子どもへのかかわりや言葉かけ等、支援者として学ぶことも多かった。

3 ワークで、身近な物や親子で遊べる簡単なスキルにヒントを得た親が、家に帰って我が子と遊んでいるという。こうしたワークが日常生活に活かされ、家庭の中で親子のウェルビーイングの向上につながった。

4 はじめて出会う施設とのヒアリング、打ち合わせがコーディネーターによって丁寧に行われ、施設が安心して実施できるよう、連絡を取り合い信頼関係をつくりながら実施できた。

この事業の目的に対しての成果は十分あった。今後、芸術的なプログラムが、0歳児からの成長発達や、親子のウェルビーイングに欠かせないと社会的評価に結び着くまで、継続し続ける使命を感じている。

保護者アンケート回収 27 枚 (100%) データ

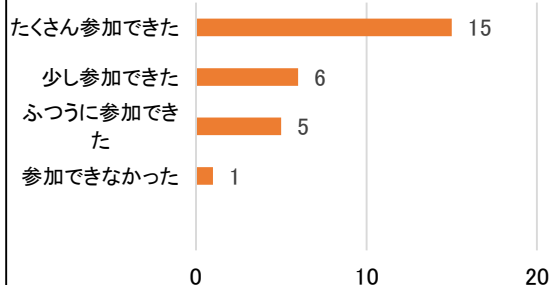
参加者内訳 (191 人)

子ども 95 人 保護者 27 人
施設職員 67 人 その他 2 人

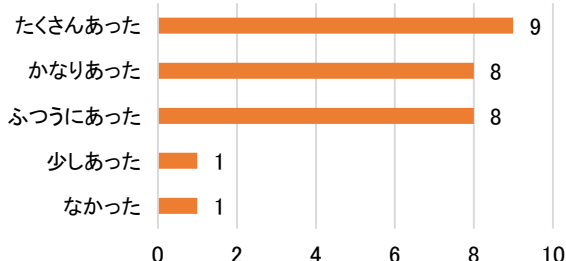
参加した保護者の年齢(27 人)

20 代 : 12 人 30 代 : 10 人 40 代 5 人

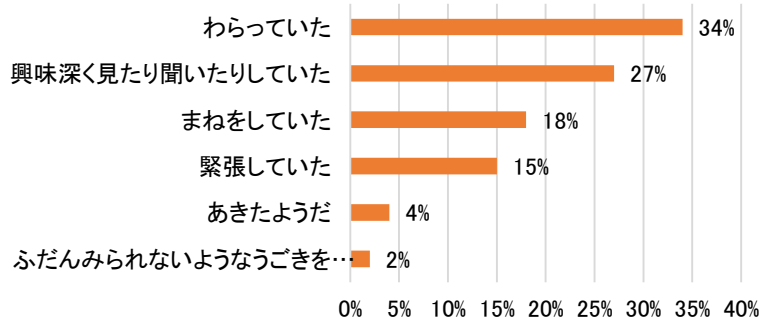
今日はどのくらい参加できましたか？保護者27人



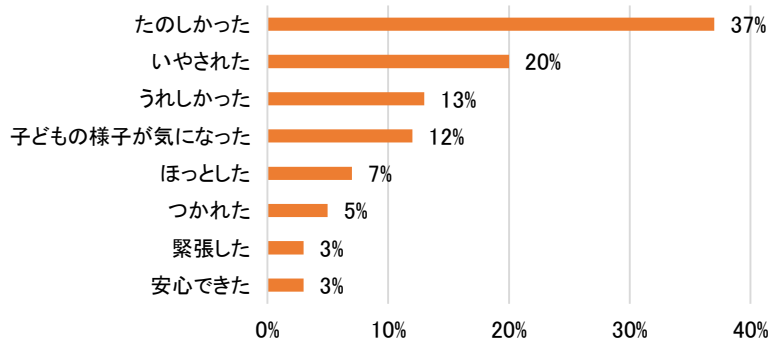
家に帰ってやってみようと思うことはありましたか？27人



ワークショップを体験したお子さんの表情はどうでしたか？(複数回答可)



わが子といっしょにみて親としての気持ちはどうでしたか？(複数回答可)



時間はどうでしたか？(27 人)

ちょうどよい 26 人
もっと長くてもよかった 1 人

また参加したいですか？

参加したい 26 人
どちらでもない 1 人

保護者自由記述

- ・子どもが楽しく身体を動かし参加してよかったです。
- ・自分は耳が聞こえないけど、子どもと一緒に踊って楽しめました。ありがとうございました。
- ・親の私でも釘付けになってしまうほど楽しかったです!!
- ・最初は緊張していたが、動きをしっかりと見て、最後は1人でおちゃんのところに行って安心しましたし、とても楽しんでいてうれしかったです。
- ・まわりのお子さんからも刺激があって、いい時間になりました。
- ・他の子達との絡みが不安でした。(2歳半以上~3歳未満のお子さんの父)
- ・子どもの興味をひく工夫がたくさんあって私自身もとてもひきつけられました。
- ・身近なものとおちゃんのテクニックでこんなに楽しく子どもを楽しませられるのだなと感心しました。子どもの想像力を大切にしたいなと思いました。



コメント

保護者のアンケートは回収率 100%。また参加したいも 100%、お子さんの表情について 80% が笑っていた・興味深く見たり聞いたりした・真似をしたと子どもの積極的な子どもの姿を認めている。わが子と一緒にみた親の気持ちは、たのしかったが一番で、いやされたうれしかったと、子どもと一緒に親子で楽しみ、喜び、幸せ感を感じている。親子ともに最初緊張感もあったようだが、時間の経過とともに気持ちがリラックスしてきたようだ。同年齢の子どもを見る機会となり、いい刺激もあったよう。親子で体をうごかすことも、身近なもので遊べるんだというのも、発見だったようです。ワーク中もわが子のことが気になり、落ち着かなかった方もいましたが、参加者でフォローし合う光景もあり、養育者がつながる機会にもなりました。

施設職員・スタッフアンケート回収 52 枚 (87%) データ

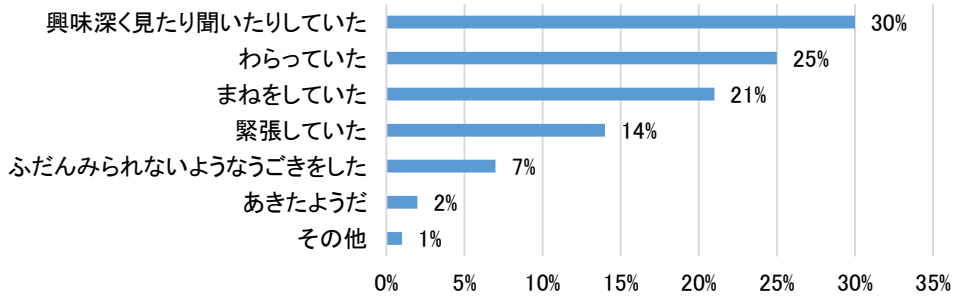
施設スタッフの経験年数

3 年以上～10 年 37 人
 2 年以上 3 年未満 9 人
 1 年以上 2 年未満 6 人
 1 年未満 6 人

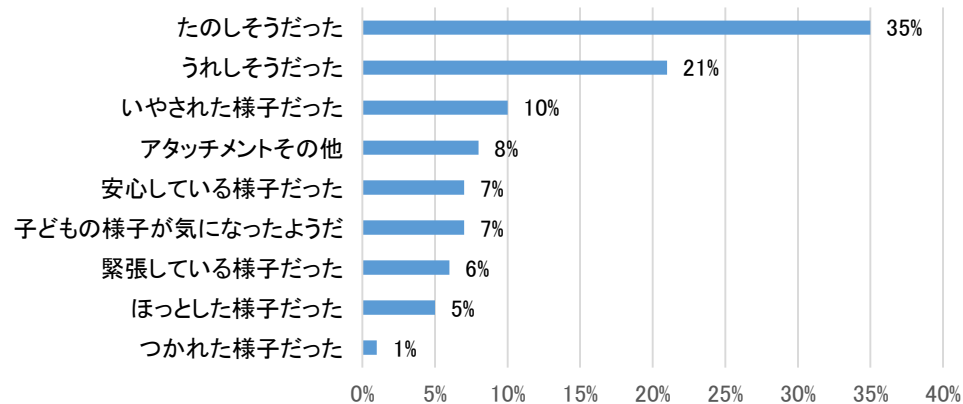
施設スタッフがかかわっている乳幼児の年齢

①0カ月～6か月	②6カ月以上～1歳未満	③1才以上～1歳半未満	④1才半以上～2歳未満	⑤2歳以上～2歳半未満	⑥2歳半以上～3歳未満	⑦3歳以上	未記入
25	28	27	32	25	19	30	0

ワークショップを体験した子どもたちの様子はどうでしたか？(複数回答可)



保護者または子どもと養育者の様子はどうでしたか？



時間はどうでしたか？

ちょうどよかった 55 人
 もっと長くてもよかった 3 人
 もっと短くてもよかった 1 人

今日はどのくらい参加できましたか？

たくさん参加できた 26 人 かなり参加できた 17 人 ふつう 6 人
 少し参加できた 5 人 参加できなかった 1 人

<施設職員・スタッフの自由記述>

- ・おーちゃんの話術に子どもたちは自然に緊張がほぐれ楽しそうな表情を浮かべ、応答や言葉真似をして参加していました。勉強になりました。見ている大人も楽しくなる素敵なワークでまた見たいです。
- ・子どもたちへの声かけ、優しい笑顔に大人も幸せな時間を持てました。始めは緊張していた子どもも徐々に笑顔になり一緒に参加できるようになり、次の日昨日おーちゃん楽しかったねと、話してくれました
- ・子どもたちがパッと明るくなり、私も久しぶりに大笑いしました。温かく受けとめて下さったり、流れている時間が子どもにとってとても穏やかなものでした。月に1回行っていただけたらとても嬉しいです。
- ・表情、話し方、身振りによって理解の難しい乳幼児でも楽しめるものだと感じた。
- ・こどもと保護者の個性やそれぞれの思いに寄り添って、安心できる空間と時間を創ってくれました。この様な機会を通じて子どもたちも親も育っていくと思います。
- ・知ってる曲がたくさんあって、子どもたちもとても楽しそうでよい体験でした
- ・はじめは緊張していたお母さん、子どもたちがどんどん楽しそうに体をいっぱい動かすすがたを見ることができて、嬉しかったです。色々なこどもたちを受け入れてくださりありがとうございました。
- ・子どもたちの性格も見え。母たちの様子もどのような反応、対応をするのかも見られてよかったです。
- ・子どもたちを楽しい時間を過ごすことができました。玩具を使わずに、手と歌だけで遊べるため場所を選ばずに気軽に楽しめるため、日常にとり入れて行きたいと思いました。
- ・なにより母の表情がとても良かった。笑っている顔がたくさん見られた事、父も参加してくれて良かったです。勉強になります。
- ・親子と一緒に楽しむことができました。子どもも親も参加しているのがすごーくいいです。
- ・興味津々な子どもたちの表情、笑顔を見ることができてとても嬉しく思いました。また、お母さん方もスタッフの方々、周りの大人を頼り少しリラックスしている表情がうかがえ、お母さん方の良いリフレッシュの時間となったと感じます。
- ・子どもたちが興味を持って参加する様子が見れてよかった。一緒に参加できるプログラムがあってよかった。

コメント

- * 子どもたちの様子は、興味深く見たり聞いたりしていた、真似をしていたが80%。 親子の様子は 楽しそうだったが断トツで、うれしそうだった、いやされたようだ 安心しているようだが80%と、このワークとの出会いが、養育者・支援者を笑顔にし満足できたことが覗える。また、お母さんのリフレッシュにもなったことも職員スタッフとしてはうれしかったようです。
- * 月1回来てほしい、また来てくださいと、継続を強く望まれている。
- * パフォーマーの言葉や、子どもたちへの声掛けが、子どもを安心させ 緊張をほぐし、子どもがどんどん変わっていく様子は、施設スタッフにとっても学ぶことが多かったと答えている。親子のウエルビーイングの一助になったようだ。

「まとめ報告会」の開催 乳幼児と養育者のウェルビーイングな一日



■日時：2025年2月19日(水) 13:30~15:00 オンライン ZOOM

■参加者：58人(実施施設及び発表者16人 パフォーマー2人 市議・県議3人 市町村職員2人 ちばのWA1人 ちばぎんハートフル1人 児童養護等施設4人 団体正会員10人 コーディネーター・理事19人)



アンケート結果から全体報告 滝口淳子(子ども劇場千葉県センター)

アンケートは保護者は100%、施設スタッフは87%の回収率。保護者から、「また参加したい」の回答は100%、楽しかった・癒された・嬉しかった等積極的な回答は70%。「家に帰ってやってみようと思うことがあった?」は93%、時間は丁度良かった96%。施設職員アンケートで「保護者子どもと養育者の様子」では「楽しそうだった、嬉しそうだった、癒された様子だった、安心して様子だった」73%。パフォーマーの芸術的な内容の素晴らしさ、プロフェッショナルとしての技量の高さに驚きの声も聞かれました。

子どもたちが、笑ったり 興味深く見たり聞いたり 真似して楽しむ姿を、保護者や施設職員の方がたが、喜ばしくほほえましく、参加した方々の満足度が高いことが見て取れる。自由記述からも、親子ともに遊びで心癒される時間だったことがわかります。一方アンケートからは「疲れた」「緊張した」「飽きたようだ」もありました。こうした感情も大事にしたいと思います。

アンケートや自由記述、当日のリアルな実感から、こうしたプロによる芸術的なプログラムが、「0歳~2歳までの乳幼児の育ち、養育者の支援に有効である」ことを示しています。

8か所の実施報告 地方紙新聞記者の報告



乳児院エンジェルホーム

ガラガラと大笑いすることで元気をもらえることを、コロナ時に経験した。おーちゃんのアドリブに、引き込まれてのリズムであそび。1歳の赤ちゃんも発達のゆっくりな子どももとても楽しんでた。施設でお出かけする機会も少なく、愛情を持って育てているつもりですが、こうした機会をつくるのは難しく、本当に良い経験をした。県内の乳児院の合同保育をしたいということがあり、そんな場でパフォーマーに来てもらいたい。または是非参加したい。
(施設長：古里美夏 保育士：篠塚)

聖愛乳児園

大森さんのキャラが立っていて、最初は緊張していたが、体を動かし、ふしぎ?に興味をもち、かたづけまで遊びになっていた。プロにはこんなに面白い人がいるんだと思った。アシスタントをした職員のおんなに楽しそうな姿をはじめて見た。子どもたちはのっぴきならない事情を抱え入所しており 地域のボランティアの方々にも支えてもらっている。乳児院の合同保育の場にパフォーマーの方にぜひ来ていただきたい。今後も是非継続して頂きたい。
(副園長 藤巻 学)

乳児院コミュニティ長柄

(メッセージにて)

人間形成における、年齢相応な生活経験、生活知識修得の大切さは言うまでもありません。乳幼児期の豊かな生活経験・知識は乳幼児の伸展に必須です。ワークでの「穏やかで豊かな調べ」は、乳幼児の眠っていた感性を刺激し、目覚めさせ、言語、運動機能へと繋がっていきます。人と人が「時」と「場」を共有し「豊かな人間関係」を構築させていく普遍的なものの存在を教えてください。今後の継続を願っています。
(施設長：塩原 勲)

はぐくみの杜君津赤ちゃんの家

感染症や発熱が発生したため日程を変更し、プログラム内容を変更して実施できた。わらべうたを毎年お願いしている。緊張して子どもが保育者に身をゆだねる。人見知りや激しい子もいますが、安心して身をゆだねる1対1の時間は大変貴重です。ゆっくりですが、緊張した顔や体がほぐれていく様子を感じることができた。スタッフがスキルを学ぶことも目的にしており、スキル獲得ができた。

(副施設長 林国晃)

乳児院イーハトーブ

(メッセージにて)

始めこそ職員の後ろに隠れてしまう子ども達でしたが、直ぐに前へ前へと出ようとする姿も見られていました。同じ空間で身体を動かし、スキンシップを取っていく事で終わりの頃にはすっかりと打ち解け、安西ワールドに引き込まれキラキラな子どもたちの笑顔がありました。外部の方との関わりがどうしても希薄で、体験することが困難な子どもも多い中、来所してパフォーマンスを体験できる機会はとても貴重です。

(施設長：富山裕美)

旭ヶ丘母子ホーム

楽しい時間をありがとう、最初警戒していた子どもたちがどんどんまあちゃんに近づき笑顔になった。我が子の姿を笑顔で見つめる親の姿は印象的で、親子のこんな顔みたことない。言葉のかけあい、「いいね！」の声かけ、こんなプログラムがあることに興味をもった。いろんな方の声かけが、養育者の気持ちを楽しめた。どう子どもと遊んでいいか、わからない親もいて、ワーク後家の中でも子どもダンスして遊んだと聞いた。

(施設長：花島治彦 保育士：松崎姫乃)

青い鳥ホーム

打ち合わせの際に、企画書の中からプログラムを選んだ。車イスでの生活をしている方もいて、この日はまあちゃんのダンスにいい笑顔で過ごした。音楽に合わせてカッコよく踊る子もいた。他の家庭や子どもにも出会う良い機会にもなった。写真の点検など、親子の安心安全を守ることに協力してもらえて有難い。施設では、こうしたプログラムを楽しむ時間をとれていないのが現実で、施設だけで作ることも難しい。また是非お願いしたい。

(施設長：山本裕子)

国府台保育園・地域子育て支援センター こあらっこ・こどもセンター

「今日は誰もおこらない日、おこられない日」保育士さんからママたちへのメッセージで、ママやパパたちがホッと安心して雰囲気できた。緊張気味だったが、おーちゃんに引き込まれ、たくさんの笑顔になった。子どもが夢中で遊ぶ表情に、お母さんが笑顔。お母さんは今を生きるのが精いっぱい、希望とか夢とか考える余裕がない。子育てして疲れてママたちが、心が開放されて笑顔になり、施設スタッフと一緒に共有できて本当によかった。

(保育士：矢坂陽子・小室香)

マスコミ

恥ずかしながら乳幼児向きのものに触れたことがなく、多くの驚きがあった。プロのパフォーマーが必要だと理解した。評判が高く素晴らしい事業だ。資金も民間が調達して届けていると聞き驚いた。0歳から非認知能力獲得を、芸術を活用したプログラムで実現しようと、民間の努力でやられている。こうしたことを知らない社会に認識のギャップを埋めるのがマスコミの役かと思う。

(地方紙記者Kさん)

3人のパフォーマーから

大沢 愛(通称：あいさん)

主にわらべうたを届けていて、毎年行っている乳児院の職員の先生とは顔なじみで、信頼と安心感がある。2部構成で、最初赤ちゃんから、後半幼児とあそぶ。コロナ以降、子どもたちの緊張感が強いと感じている。最初のわらべうたを歌うと、ふっとその場の空気が変わり、ホッと瞬間がある。とても大切な瞬間です。1人1人のタイミングや距離感、間合いを大事にしている。子どもたちにとって一番の環境は、目の前にいる大人の存在です。

安西真幸(通称：まあちゃん)

母子ホームではお母さんが安心して、リラックスできるようにした。「今はこの人に任せよう」という空気。ママも主役になってほしいという思いで子どもと遊ぶ。子どもによっては今とは限らない、終わった後で部屋に戻ってあそんだと聞いて安心した。創作する際には、最初に声を発してくれた子、最初に真似してのってくれていっしょに踊ってくれた子、それは勇者です。1人目の子どもにいつも感謝し、そして刺激になっている。

大森靖枝(通称：おーちゃん)

私は、乳児院や母子ホームでの仕事が好きです。子どもたちを見ると、日常どれだけ愛情深く接しておられるかよくわかる。どの施設もみな温かいです。「参加できなかった」との声がありますが、でもずっとその部屋にいるということはもう参加しているのです。また、親が疲れたというのはよくわかります。毎日ががんばっているのですよね。1回の体験では体験に終わり、日常が変わるためには、継続しなければ本当の体験になりません。

<参加者アンケート>

プログラムの構成も時間もよく、施設の方の他、パフォーマーの方、新聞社からのメッセージもあり、この活動の素晴らしさが伝わってきました。施設の方たちが親子のその後の変化やワークの意義に気づき 継続を望まれていたのが 印象に残りました。

実施施設： 乳児院エンジェルホーム

プログラム名：「なんだろな なんだろな？」



実施場所：乳児院エンジェルホーム

実施日時： 2024年 10月 8日 (火) 15:00~15:40

参加者数：総数 22 人

① 乳幼児 14 人(0歳児~1歳児：8人 2歳児：4人 2歳児以上：2人)

② 大人 8人(保育士7人 看護師1人)

スタッフ数：パフォーマー：大森靖枝

コーディネーター2人(大塚るい)(鈴木佳子)

プログラム内容

最初のお遊び(メロディオンやスライド笛)ラッパとピコピコ楽器で登場。手をたたくぶらぶらあそび、なんだろなカードあそび、どんぐりどんぐりどんどんどんリスとどんぐりのお話あそび、マヨネーズ笛(しゅっしゅぽぽする)おさんぽおさんぽ1・2・3、郵便屋さんおーちゃんの家さがし、とまとんとん(トマトの箱がうさぎに変身したり、星からきたトマトントン宇宙人になる)おもちゃで遊ぶ

当日の様子

最初は何をするんだろうと緊張気味でしたが、おーちゃんとかおちゃん先生が楽しそうに遊んでいるので、なんか楽しいことが始まりそうだなと座りました。2歳の女の子と前にある楽器(メロディオン)に興味を持ち、気になり楽器コーナーにほとんどのいたが、おーちゃんは楽器係ねと否定もせずメンバーとして受け入れ、楽器の所にながら、参加したりしていた。そんなやり取りもみんなの気持ちを和らげました。最初はみんな緊張ぎみの子も見られたがどんどん引き込まれて行きました。なんだかなカードでは、元気よく「うさぎ!」と答え、当たると飛び跳ねて喜んでいました。どんぐりどんぐりどんどんどんでは、どんぐりを拾ってはいっぱい口の中にほおぼって、リスになりきって楽しそうだった。マヨネーズ笛では興味深く不思議そうな顔も見られシュシュポッポと部屋中を走り回りました。おーちゃんの吹く「チュウリップの歌」では両手でチュウリップを作り笛の音に合わせて、歌いながら歌に合わせてチュウリップの手を揺らしていた。

保育士さんも子どもたちと一緒に笑顔だった。郵便屋さんのおうち探しでおちゃん先生が、とても楽しそうにくるくる回ってパン屋さん、それを見ていた子どもたちはもちろん保育士さんたちにも大うけ。一気に心の扉を開けました。不思議な不思議なトマトの箱、宇宙から来た宇宙人のトマトントン、「お腹がすいて飛べない帰れない!」と聞くと、みんなはおいしいものを嘘っこで箱に入れてくれた。やっと飛べるようになり部屋の中を飛んだり走ったり、トマトントンからお礼にもらったたくさんのおもちゃで遊んだ。

施設関係者からの声

・子どもたちへの声かけ、優しい笑顔に大人も幸せな時間を持つてました。始めは緊張していた子どもも徐々に笑顔になり一緒に参加できるようになり、次の日昨日おーちゃん楽しかったねと、話してくれました。

私は2回目ですが、とても楽しい時間を過ごすことができ出勤の日で良かったと心から感謝です。また来てくださいね。私も子どもたちとたくさん笑って過ごせるようこの仕事をします。

・おーちゃんの話術に子どもたちは自然に緊張がほぐれ楽しそうな表情を浮かべ、応答や言葉真似をして参加していました。自由に動いていた子どもも自然に問いかけられ、マイペースに過ごしながらも参加する姿が楽しそうに勉強になりました。見ている大人も楽しくなる素敵な舞台をありがとうございました。 コーディネーター：(大塚るい 鈴木佳子)

実施施設： 聖愛乳児園

プログラム名：「なんだろな なんだろな？」



実施場所： 聖愛乳児園ホール2階ホール

実施日時： 2024年10月28日(月)10:20～10:55

参加者数：総数 23人

① 乳幼児 10人(0歳児～1歳児：5人 2歳児：5人)

② 大人 13人(施設職員12人 取材1人)

スタッフ数：パフォーマー：1人(大森靖枝)

コーディネーター2人(岡田泰子)(買場都明) スタッフ：鈴木佳子

プログラム内容

楽器の練習・おててパチパチ・ぶらぶら体操・小さいお友達子犬ちゃん・なんだろなクイズ・どんぐりどんどん・黄色ちゃんなんだろな?自動車ごっこ・チューリップの唄・郵便屋さんバイクに乗って・紙袋のお手紙からくまさんうさぎさんのお散歩・トマトントンとあそび～楽器あそび～お片付け

当日の様子

- ・抱っこや手繋ぎで集合したところでおーちゃん登場。「待っててくれてたのね」と日常の延長線のように始まった。大人にも子どもにも同じ口調でにこにこ話している雰囲気みんな取り込まれる。
- ・じっと見ていた子も、ぶらぶら体操では、だんだん夢中になって、2歳児は思いっきりぶらぶら。おーちゃんもそれに合わせて「こんなのはじめてみたよ、真似してやってみよっか」と子ども達の見線で進んだ。
- ・「小さいお人形にごあいさつ」などちょっとたどたどしいが、自分でやりたいと、きっぱり言い切るポイントをついた面白さ。テーブルにのぼりきる演技。子ども達も先生も一緒になって応援していた。
- ・「やったー」で、先生がだっこして高い高い。普段の生活でも遊んであげているんだなあと思う。
- ・うれしいと子ども達は体中で行動する。おーちゃんおっかけ隊も4、5人。他の子の動きを見て自分がやりたいことがぐつぐつ湧いてきて、やっているようす。夢中になっておーちゃんのこと見、他の人のことも、ジーとみている。座っていた先生に、ニコニコ近づいてちょこんとお膝に座ったり、嬉しいなと報告に行ったんだなあという感じ。先生方が緊張でなく率先して声をあげて笑い、愉快愉快!という雰囲気。
- ・「トマトントン」、子ども達は、おいしいものはトマトントンに入れてあげたり、もらって食べたり。なりきりは一瞬でできる子ども達。

施設関係者からの声

- ・アシスタントのこじママの声：ワクワクドキドキの体験だった。絶対泣く、と思っていた子が真っ先に入室して驚いた。なぜ先頭に??その子が近寄ってきた。ふっと、室内の楽しい空気に入ったんだなと思った。
- ・ずっと楽器台の横でみんなを見ていた子は、2歳。やりたいけれどどうやっていいかわからない、やっておいでと人から言われるのはイヤみたいだ。最後は自分の思うように動いていた。
- ・子ども達が自由に体を動かして、世の中にこんなに楽しい人がいるんだ!こんな人が来てくれるんだ!と感じたと思う。ジャンプしようとして前に出た子は、生まれてすぐ来たので、こんなに成長した、思わずグッときました」。是非継続して実施していただきたいと願っております。
- ・普段人見知りする子が、よく動いている姿を見て、プログラムの構成や雰囲気が良かったのだと思います。

コーディネーター：(岡田泰子 買場都明)

実施施設：旭ヶ丘母子ホーム

プログラム名：「リズムにのって Dancing 」



実施場所：旭ヶ丘母子ホーム 学童集会室

実施日時： 2024年 11月 24日（日） 10：30 ～ 11：15

参加者数：総数 13 人

①乳幼児 6人(0歳児～1歳児：3人 2歳児：1人 2歳児以上：2人)

②大人 7人(保護者4人 施設職員2人 マスコミ関係者1人)

スタッフ数：パフォーマー：安西真幸（まあちゃん）

コーディネーター：滝口淳子 中村雪江 スタッフ：買場都明

プログラム内容

ウォーミングアップ：幸せなら手をたたこう・おいでおいでパンダ・アブラハムには7人の子・アイアイ・他ベビーシャークダンス、何の音？：キュキュキュ、ビヨヨ～ン、ブクブク、ビューン風・さんぽの曲で動物絵カードで動物のまねっこ～音楽に乗って表現あそび 汽車ごっこ？動物さんが乗って来る。後半さらにアップテンポ：エビカニクス・からだ☆ダンダン・等

当日の様子

興味津々で活発に動く1歳児は、広々とした室内をとことこ走って隅々に入り込み、お母さんは追いかけて気が気じゃなさそう。圧倒的な好奇心の塊にスタッフは魅了されしばし見とれる。スタッフ全員がそれぞれお母さんに、大丈夫、大丈夫と声をかけている。少し人見知りの4歳児、動物の絵を見ながらうさぎさんどんなの？わにさんどうなの？教えて？というまあちゃんの言葉に、いち早く反応して、手で耳を作ったり、わにの口をガシガシ、口からも言葉が漏れる。「お、いいね!!そのポーズいただき！」まあちゃんの声かけに、はにかみながらもとっても嬉しそうな表情を見せた。

次々と、音楽に合わせて短いダンスあそびの連続で、走り回る足幅やスピードが自然にリズムに合って変化したり、足踏みしたり、まあちゃんのまねをして、手を振り上げたり、一瞬も休まず体が反応している。みんなゴロゴロねころぶと、吸い付けられるように講師に近づきまあちゃんの背中に上り始めた。まあちゃんからの嬉しそうな「イイヨ！イイヨ！」の声かけによる圧巻のコミュニケーション能力に、周囲はおおー！と感嘆の声。モウサイコー!!と言いたくなるほど、子どもの特性がのびのび発揮される場面がたくさんあった。ダンスはしなかった母親は、スタッフや先生方にたくさん抱っこされたり、話しかけられている我が子をずっと追っているまなざしがあり、ずっと笑っていた。風で布を跳び越すのがお気に入り。布を握りしめたり、いろんな人に抱っこされて、ビューンビューンくぐった。

保護者からの声

- ・楽しかった100%、また参加したい100%。 ・子どもが楽しく身体を動かし参加してよかった。
- ・子どもと一緒に踊って楽しめました。

施設関係者からの声

- ・母子にとってとても楽しい時間でした。開催していただけてとてもありがたかったです。
- ・こどもと保護者の個性やそれぞれの思いに寄り添って、安心できる空間と時間を創ってくれました。この様な機会を通じて子どもたちも親も育っていくと思います。

コーディネーター：(滝口淳子 中村雪江)

実施施設：乳児院コミュニティ長柄

プログラム名：「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」



実施場所：乳児院コミュニティ長柄養育室

実施日時： 2024年11月27日(水) 10:00 ~ 11:00

参加者数：総数32人

子ども：1回目乳児7人(0歳児：5人 1歳児：2人)

2回目幼児9人(1歳児1人 2歳児3人 3歳児4人 4歳児1人)

大人 16人(施設職員16人)

スタッフ数：パフォーマー：大沢 愛

コーディネーター2人(白鳥みゆき)(大森智恵子) スタッフ：桑原信子

プログラム内容

【乳児】

- ・一人一人、名前を呼んでご挨拶
- ・♪にぎにぎ ♪てんこてんこ ♪ちっちっち ♪手ってのねずみ(ネズミの指人形を使って) ♪ぎっこんぱったん ♪わたろわたろ(大きな布を使って)鉄の楽器のチーンの声 ♪さよならあんころ餅

【幼児】

- ・♪ちっちっち ♪うまはとしとし ♪手ってのねずみ(ネズミの指人形を使って) ♪ぎっこんぱったん ♪見えた見えた(またのぞき) ♪ちっちこのゆびとまれ ♪ちょちょアワワ ♪かごかご十六文 ♪トンボトンボ(赤とんぼの人形を使って) ♪いもむしごごろ ♪わたろわたろ(大きな布を使って)鉄の楽器のチーンの声 ♪さよならあんころ餅(お手玉を配って)

当日の様子

【乳児】

部屋に入ると、少し緊張気味の乳児さんたち。愛さんの優しい語りかけに少しずつ体の力が抜けてリラックスしてきた。♪にぎにぎにぎと歌いながら顔の前で手をにぎにぎして見せると、じっと愛さんの顔を見て、何人か手を動かしたり、にぎにぎする子もいた。「にぎにぎしてる」と保育さんもニコニコ。途中、気持ちが良くなって眠たくなってしまったのか、うつらうつらしている子がいた。大きな布を使っての♪わたりわたろでは、ふんわり動いていく布を見つめて、時折保育士さんの顔を見て、何か言いたげな様子の子がいた。

【幼児】

愛さんが歌いかけると、段々と気持ちもほぐれリラックスしてまねっこしていた。また、はしゃいで感情を大きく出す子など、個々の色々な表現が見られた。トンボ止まるかな?では、みんな指を立て手をウンと伸ばして、愛さんトンボが止まってくれるのを待っていた。配られたお手玉を投げてしまう子がいて、保育士さんは制しようかどうしようかと迷っているようだったが、愛さんの対応に任せてくれていた。

施設スタッフからのコメント

- ・わらべ歌は、日常で使える良さがある。場面の切り替えの時などに使っていきたい。
- ・乳児さんで眠たくなった子、心地よさを感じていたのと思う。
- ・Sちゃんは、とても楽しみにしていた。トンボに止まってほしくて、手をのばしていた。
- ・R君は、お手玉を配ってくれていた時「次はぼく」と言って心待ちな気持ちが言葉にも出ていた

コーディネーター：(白鳥みゆき 大森智恵子)

実施施設：君津赤ちゃんの家

プログラム名：「わらべうた 「うたとおはなしのじかん」



実施場所：君津赤ちゃんの家

実施日時： 2024年 11月 28日 (木) 10:00 ~ 11:05

参加者数：総数 17人

①乳幼児 8人 (1回目：2歳~5歳4人 2回目：1歳~2歳4人)

②大人 9人(保育士等施設職員 9人)

スタッフ数：パフォーマー：大沢 愛

コーディネーター2人 (中村雪江 鈴木佳子) スタッフ：桑原信子

プログラム内容

- 2歳~5歳：チッチッチっ 手ってのねずみ まいげのじいさん うまはとしとし ギッコンバッタン いもむしころぎり 電車に乗ろう 見えた見えた 輪になってあそぼ わたろわたろ チーン さよならあんころも
- 1歳~2歳：チッチッチっ 手ってのねずみ ちょちちょあばば いもむしごろごろ まてまてまて しおぶりこぶり かごかご十六文 わたろわたろ 指人形ねずみさん チーン さよならあんころもち

当日の様子

2歳~5歳：ひとりひとり保育士に抱っこされて緊張気味に入室した子どもたちは、愛さんのチッチッチっで鳥さんが飛んできて手に止まる足にとまる 背中に止まる、飛んでいくを目をおいながらみていたが、手ってのネズミでこちょこちょされるとくすぐったくて声を出して笑いはじめた。ギッコンばったん いもむしごろごろと身体を動かして遊ぶわらべうたで、だんだんと緊張がほぐれてきたよう。足の間から「見えた見えた」は大はしゃぎで先生と足の間から顔を見合って楽しんだ。大きな声を出してはしゃぐようにしている男児、保育士からなかなか離れられない女児も目と耳と身体は愛さんに向いていた。愛さんと対面での手遊びは、しっかり目を見て真似っこできニコッとしていた。

1歳児~2歳児：食いつきすごく、チッチッチっで目で追い 手ってのねずみ ちょちちょあばばで大喜び。いもむしごろごろ まてまてまてと会場いっぱい動きまわった。指人形のねずみさんは、愛さんの周りにあつまり、指人形の動きに集中してその動きに反応し、ネズミさんと会話しているようだった。1人1人の目を見てゆっくりとしっかり語りかける愛さんに、笑顔と嬉しそうな表情で返した。静かでもとても豊かな時間が流れた。

施設からの声

- ・人見知りの子もにこにこしていた。わらべうたを聞く機会がなく、わらべうたを知らない若いスタッフにとってもいい時間になりよかった。
- ・数年前の愛さんのワークで「てんこてんこてん」をワーク中では何度もやるのをじっと見ていたが、部屋に戻って「てんこてんこてん」をやり始めたことを思い出し、赤ちゃんの力はすごいと思った。
- ・スタッフがスキルを学ぶも目的にしており、スキル獲得ができた。

コーディネーター：(中村雪江 鈴木佳子)

実施施設： 青い鳥ホーム

プログラム名：「みんなでいっしょにダンスダンス！」



実施場所：青い鳥ホーム 地域交流ルームぶどうの家

実施日時： 2024年11月30日（土）10：30 ～11：10

参加者数：総数 23人

① 乳幼児 11人（0歳児～1歳児：5人 2歳児：3人 3歳児以上：3人）

② 大人 12人（保護者7人 施設職員5人）

スタッフ数：パフォーマー：1人（安西真幸）

コーディネーター2人（岡田泰子）（中村雪江） スタッフ：桑原信子

プログラム内容

- ① ストレッチで体ほぐし。
- ② みんなでダンス：「しあわせなら手をたたこう」「アブラハムの子」「パンダうさぎコアラ」「アイアイ」「ベイビーシャーク」
- ③ 「どうぶつでんしゃがやってきた」。紙に「さる・うさぎ・わに・ねずみ」の絵が描いてあり、「この子はどんなダンスする？」と安西さんがきくと「こうだよ！」と動物のまねをする。「こうかな？」と子どもにフリを教えてもらって曲にあわせて動物の振りを入れてダンス
- ④ 擬音に合わせて「なんだこの音？」頭上を走る大きい白い布と遊ぶ。「さんぽ」の曲にのって動く
- ⑤ 「エビカニクス」「からだ☆ダンダン」「ジャンボリミッキー」で踊る。もう一度ストレッチして終わり

当日の様子

- ・「キュ！キュ！」「ビョ～ンビョ～ン」「みゃあ～みゃあ～」「こっこ～こっこ～」「ビュ～ビュ～」風の音に合わせて白い布が会場を走ると、こどもたちは白い布の下をくぐったり、頭に絡まって楽しそうだった。
- ・「エビカニクス」「からだ☆ダンダン」「ジャンボリミッキー」ではフリも完璧に踊る子どももいて最高にもりあがった。「ジャンボリミッキー」では子どもから「ハ・ハ・ハ」と曲に合わせて声もでていた。安西さんからも「じょうず！」と声をかけられていた。最後にもう一度体ほぐしてストレッチ。
- ・はじめはお母さんのそばを離れなかった子どもが安西さんの回りでダンスを踊った。「エビカニクス」や「からだ☆ダンダン」「ジャンボリミッキー」などは普段から知っている曲で、ノリノリで声も出て全身で楽しんでた。それを見たお母さんたちも表情も明るくなって、ニコニコと楽しそうに子どもの様子をみていた。
- ・職員に車椅子を押されて入場したお母さんは二人のこども連れ。幼い妹は最初少し泣いていたが、暫くすると笑顔になり、二人ともリラックスして会場いっぱいを走り回った。お母さんはとても嬉しそうだった。

保護者からの声

直後のアンケートで「楽しかった」「いやされた」「ホッとした」を選んだ方が多く、全員が「また参加したい」を選んでいる。自由記述欄にも改めて「楽しかったです」と書いてある。

施設関係者からの声

- ・お母さんがDV被害者だったりするので、子どもにいろいろな機会や体験をさせてあげたい。子どもも怖い男性しか知らないで、今日は安西さんに会って暴力を振るわない男性に会って抱きついていていたのだと思う。お母さんだけではこういう機会は作れない。機会があったら又やってもらいたい。
- ・普段は見られない子どもの姿みられて、良かった。笑顔がみられいい表情をしていた。

コーディネーター：（ 岡田泰子 中村雪江 ）

実施施設：乳児院イーハトーブ

プログラム名：「みんなでいっしょにダンスであそぼう！」



実施場所：乳児院イーハトーブ 会議室

実施日時： 2024年 12月 5日（日） 10：00 ～10：40

参加者数：総数 19 人

①乳幼児 11人(0歳児1人 1歳児4人 2歳児4人 3歳児2人)

②大人 8人(8人(施設職員 8人))

スタッフ数：パフォーマー：安西真幸（まあちゃん）

コーディネーター：滝口淳子 椎名好子

プログラム内容

- ・身体トントンほぐし・幸せなら手をたたこう・アブラハムには七人の子・パンダウサギコアラ
- ・あいあい・ベイビーシャーク・動物列車（絵カード付）・いろんな音であそぼ・風が吹いてきた
- ・さんぽ・エビカニビクス・からだだんだん（お母さんといっしょ）・ジャンボリーミッキィー

当日の様子

入って来た時は緊張の顔、保育士さんの膝にちんまり座っていたり、首に腕巻きしがみついている子も。でも警戒しながらもみんなの目はまーちゃんの方をじーっと見ている。「ちょっと寒いからトントンしよう」の声掛けで保育士さんがトントンし始めるとすぐに自分で手足をトントンしだす子も。パチンと手をたたき真似っこから「幸せなら手をたたこう」の曲であつという間にノリノリの子たちが出現「アブラハム…」手足、おしり振り振りお顔もニコニコ。一人二人とお膝から降りてきて、歌とまーちゃんの動作を真似っこして部屋の中をとび回っている。キャッキヤと声を上げケラケラ笑いながら保育士さんと一緒に動いている子も。身体も気持ちもあつたまり笑い声響く部屋の中をいつもは保育士さんから離れないシャイな子もまーちゃんの方に寄って振りをまねている。どうぶつ列車のカードが出てくると「うさぎ!」「おさるさん!」と大きな声を上げながらいろんな動作をつくりアピール、まーちゃんに見せながらダンス「あつ!それいいねえ」と喜ぶまーちゃん。得意げな子どもたち。保育士さんたちも子どもたちの一挙一動を大切にニコニコ幸せそうな顔で一緒に遊ぶ。と、いきなり「ぼよよーん」変な音が聴こえ一瞬動きが止まり「何?」不思議そうにまーちゃんを見る。最初こそ戸惑っていたけどすぐ音に合わせていろんなオリジナル動作を繰り出しずーっと笑っぱなし。子どもたちの仕草を受けてニコニコしたくさん素敵言葉にして返すまーちゃんとのやり取りが楽しく笑顔があふれる。白布が頭の上を通りぬけると捕まえようと手を伸ばす。布の動きをじーっと見てる子も。ラスト3曲はノリノリ笑顔満開、跳ねる、回る、身体中で楽しんでいた。

施設関係者からの声

積極的にいくかなと思っていた子が意外におとなしく、絶対離れないと思っていた子が自分から入っていったなど普段と違う様子が見られた。抱っこのベビーがニコニコして最後は寝ていたのは安心空間だったのだと思う。どの子もストレスのない位置にちゃんといた。居心地のよいところを自分から見つけていた。子どもたちの色んな反応が見ること出来てよかった。

コーディネーター：(滝口淳子 椎名好子)

実施施設： 国府台保育園 こあらっこ・こどもセンター
プログラム名：「なんだろな なんだろな？」



実施場所：国府台保育園 プレイルーム

実施日時：2025年1月18日（土） 10：20 ～11：15

参加者数：総数 42人

① 乳幼児 19人(0歳児：3人 1歳児：5人 2歳児：7人 3歳児以上：4人)

② 大人 23人(保護者16人 施設職員7人)

スタッフ数：パフォーマー：1人(大森靖枝)

コーディネーター2人(買場都明)(中村雪江)

プログラム内容

オープニング・ぱんだちゃんのご挨拶・なんだろなクイズ・どんぐりどんどん・黄色ちゃんなんだろな？汽車ごっこ・チューリップの唄・郵便屋さんバイクに乗って・紙袋のお手紙からくまさんうさぎさんのお散歩・うさぎさんの布遊び大風小風～・腹ペコトマトントンとあそび～楽器あそび～お片付け

当日の様子

ラッパとキュッキュクの楽しい音に子どもたちは一斉に注目「あれ？誰かいるのかな？」というおーちゃんにさっそく後ろ後ろと応える子。小さなパンダちゃんのご挨拶で会話ごっこの世界に皆入りこむ。パンダさんを撫でる子ども達の手つきがとてもやさしい。1歳の子がしきりに自分の頭もいい子いい子する。大きな椅子を自分で運ぶ、自分でやる、と主張するパンダちゃんを、ごっこ遊びの中でママもパパも笑顔で応援しているのもほほえましい。パンダちゃんが落ちこちそうになる度にアーとみんなから声が上がり、ガンバレの声や見守りの視線が高まる。次に何が出るのか好奇心いっぱいの目。マヨネーズ容器の水笛で音が出ると、大人がオオ!! 0歳児のママもやってみようとおつぶやく。笛の汽笛に抱っこのお母さん達も立ち上がり「シュッシュッポ」「行ってらっしゃーい」手を振りにぎやかな汽車ごっこ。スタッフやママパパのトンネルもでき、「今度のトンネルはいい子いい子トンネル」のおーちゃんの声で、トンネルの中はふれあいコーナー。入り口で赤ちゃんを膝抱っこのままシュッシュと声掛けしていたパパも、長い手を伸ばしてみんなをいい子いい子。大人も子どもも笑顔がいっぱい。

保護者からの声

・大事な時間を作っていただきありがとうございます。・じっとしていられない子供にとっても丁度よく、一緒に遊べて楽しかったです。立っても歩いても、注意しなくていい場は親が安心します。マヨネーズの容器に水の笛にビックリしました。家でやってみます。

施設関係者からの声

・興味津々な子どもたちの表情、笑顔を見ることができとても嬉しく思いました。お母さん方もスタッフの方々、周りの大人を頼り、少しリラックスしている表情がうかがえ良いリフレッシュの時間となったと感じます。・子どもを守るためにまず母を支える。今日は誰もおこらない日、おこられない日。

コーディネーター：(買場都明 中村雪江)

「芸術の力を活用した遊びやワークショップを、支援を要する子ども達へ届け、0歳からの笑顔とウェルビーイング向上をはかる」事業

実績報告書

発行日：2025年 3月 10日（月）

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート
新千葉 102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp



公益信託 ちばぎん
ハートフル福祉基金
実績報告書

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号
TEL:043-301-7262 FAX : 043-301-7263

E-mail : kidchiba@lily.ocn.ne.jp <http://chiba.gekijou.org/>